

(財)日本ユニセフ協会

50周年  
記念事業

# 第3回 ユニセフのつどい

兵庫県支部  
設立 3周年

## 世界のともだちと心をつなごう

とき **3月26日(土)**  
16:00 ~ 19:30

ところ **コープこうべ生活文化センター  
2階ホール**  
神戸市東灘区田中町5-3-18  
JR住吉駅下車、南東へ徒歩約8分  
(会場へは下記の案内図をご覧ください)

参加費 **無料** ただし、事前にお申し込みください



### 交流

16:00 ~ 17:30

「防災世界子ども会議2005inひょうご」に参加する  
世界11カ国の子どもたちと交流しませんか?

アメリカ スロバキア アルゼンチン セネガル アルメニア 台湾 イラン  
ネパール エジプト ロシア シェラレオネ



神戸西高の和太鼓部や  
神戸西高の和太鼓部や  
淡河中学生の箏曲演奏も～

### 軽食

17:30 ~ 18:30

みんなでワイワイ  
おしゃべりがごちそう  
兵庫県支部学生グループ  
『UNIES』デビュー!!

### 発表

18:30 ~ 19:25

UPP(ユニセフパークプロジェクト)国際キャンプでの  
子どもたちによる遊び場づくりについての発表

お申し込み・お問い合わせは  
日本ユニセフ協会兵庫県支部 TEL 078-435-1605 FAX 078-451-9830

主催：日本ユニセフ協会兵庫県支部  
後援：コープこうべ  
協賛：神戸YMCA、ユニセフパークプロジェクト

## KOBE 国際交流フェア 2005

ユニセフも出展します!

とき：3月20日(日) 11:00 ~ 17:00  
ところ：デュオド・ム&スペースシアター JR神戸駅、地下鉄海岸線ハーバーランド駅すぐ&神戸ハーバーランドセンタービルB1F

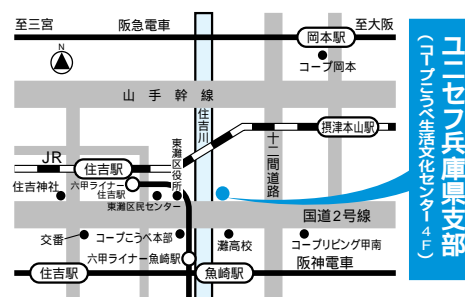
### あとがき

新しい年が始まりました。昨年末スマトラ島沖で大きな災害があり、大自然の前に人の力の小ささも感じますが、同時に、その中で助け合う力の温かさ、強さも感じます。一人ひとりの力は小さくても「世界のともだちと心をつないで」という気持ちを新たに。震災10年、日本ユニセフ協会創立50年、県支部設立3年の年、よろしくお祈りします。(K)



Vol.11号(2005年冬)  
ユニセフ兵庫ニュース  
2005年(平成17年)1月発行(季刊)  
発行:(財)日本ユニセフ協会 兵庫県支部  
〒658-0081 神戸市東灘区田中町5-3-18  
コープこうべ生活文化センター4F  
TEL 078-435-1605 FAX 078-451-9830  
(平日の10時~16時)

案内図 JR住吉駅下車、南東へ徒歩約8分



ユニセフ兵庫支部  
(コープこうべ生活文化センター4F)

本紙は古紙100%の再生紙を使用しています。

世界の子どもたちのために

# Wish

Vol.11(2005年冬)

unicef

ユニセフ兵庫ニュース

「ユニセフは、  
子どもを守ります」



© UNICEF/WCAR/Kent Page

(財)日本ユニセフ協会  
兵庫県支部  
〒658-0081 神戸市東灘区田中町5-3-18  
コープこうべ生活文化センター4F  
TEL.078-435-1605 FAX.078-451-9830

## 兵庫県支部が設立して3度目の春。

戦後60年を迎えようとしています。そんな戦後の荒廃と欠乏の中で誕生したのが(財)日本ユニセフ協会、創立50周年になります。また、今年は阪神・淡路大震災から10年の節目の年です。

昨年は『災いの年』ともいわれました。大規模な自然災害の前に、人間の無力と限界を感じますが、人災の最たるものである戦争や殺戮は人間の心と力によって避けることができます。

世界では今でも50以上の国や地域で戦争や紛争が起っています。戦いによって困難な生活を余儀なくされている人々、スマトラ島沖地震や大津波、ハンガリーやシエラレオネなどの自然災害、そして世界中で驚異的な広がりを見せているHIV/エイズなど。地球上に暮らす人々、特に子どもたちにとって人間としてあたり前に生きていくことが難しい状況が続いています。

そんな中だからこそ、求められている活動の1つにUNICEF(国連児童基金)があります。

ユニセフの現地の職員は世界中から寄せられたみなさんの善意を、世界の中の157の国や地域で活かすために、常に支援活動を続けています。日本におけるユニセフ募金は毎年増え続けており、民間のみならずから大変多くのご厚意をいただいています。また、ユニセフ活動を広げたいというボランティアさんの輪も広がってきております。そしてうれしいことに、兵庫県支部の学生グループ『UNIES』ができ、自らの言葉でできるだけたくさんの人に、世界の現状

を伝えたいという思いから活動がスタートしました。

新春を迎え、今年も支援いただいているみなさまとついに活動に取り組めることを幸せに思い、より一層のユニセフの輪を広げたいと思います。本年もよろしくお祈りいたします。



日本ユニセフ協会  
兵庫県支部  
会長 竹本成徳

## スマトラ沖地震・津波緊急街頭募金

阪神・淡路大震災からまる10年の1月17日、スマトラ沖地震・津波被害者支援のための緊急街頭募金を住吉で行いました(募金額113,996円)。底冷えのする中で募金していただいた人々、募金を呼びかけるスタッフ、それぞれの胸に被災者への思いと共感がこみあげる気がしました。



## スマトラ沖地震緊急募金のお願い

郵便口座：00110-5-79500  
財団法人日本ユニセフ協会  
通信欄に「スマトラ K1-280兵庫」と明記

ご寄付は郵便局指定の振込用紙をご利用の上、上記口座までお振込みください。  
送金手数料は免除されます。



© UNICEF/HQ04-0864/Lars Bech

被災地へ空輸する援助物資を準備するスタッフ。コペンハーゲンのユニセフ物資供給センターにて



# 『第26回ハンド・イン・ハンド』に参加して 2004年12月23日

名谷、住吉、西宮北口、宝塚と三宮の会場でのボーイスカウト15団、17団の子どもたち、総勢約90名の参加者で募金を呼びかけました。総額194,132円の温かいお気持ちをいただきました。



## 西宮北口会場

【参加ボランティアの感想】とても寒かったけどお金を入れてもらったら少し元気になった。寒かったけどみんなのためになると思ってがんばりました。寒い中の活動になりましたが手をポケットから出して募金をしてくださったり、チラシを受け取っていただけとてもうれしかったです。またの機会にはもっと多くの人に全世界の子どもたちのことを考えてもらえるように学校からも広めていき、参加したいです。(大学生)

ユニセフの募金活動をしてユニセフの活動がよくわかりました。またユニセフの活動があるときはぜひ参加したいと思いました。(大学生)

初めての体験なので緊張して参加しましたが、ボーイスカウトや子どもたちの大きな声に励まされて後半、呼びかけの声を出すことができました。久しぶりに冬らしい寒さでした。ファミリーの方が関心を持ってくださっているのが



うれしかったです。また次の機会にも協力させてください。たまにご苦労様といってください。うれしかったです。最初は声が出なかったけれどやっているうちにできて、すごくおもしろかったです。またやりたいです。(小学生)

寒い中、子どもたちががんばってくれて嬉しかったです。渡したチラシを読んでもらえるといいなと思いました。もっと関心をもってもらいたいと思います。いっぱいいれてくれてユニセフの子どもがたすかるからうれしいです。(小学生)

手がちぢかみ寒い中声をあげ、仲間の人々と共に募金をお願いして、募金箱はずっしりと重くなる程、みなさまの温かい気持ちが集まり、心はさわやかになりました。ありがとうございました。また参加させていただきたいと思います。

## 三宮会場



## 名谷会場



【参加ボランティアの感想】今日はとても楽しかったです。初めてユニセフ募金をやれてとても良い機会に恵まれ、余り声がか出ていなかったかもしれないけれど、すごく新鮮でした。またこういう機会があればぜひ参加したいです。(高校2年生)

寒かった。けっこう通りの少ない所だったのでもっと多い所の方がいいと思う。けっこう楽しいかもしれない。

言うこと、思うことは簡単なことですが、行なうという行動にもっていく事は、真のエネルギーを必要とするかもしれません。寒いとき、暑い時、そして忙しい中ボランティアのみなさまの思い。悲惨な状況下におかれている世界の子どもたちに希望の光が届きますよう、私はできる限りボランティア活動に参加させていただきたいと思っています。

今まで何度か募金はさせていただきましたが、いくらでもできるというわけではないので、今回は、体を使って協力しようと参加をお願いしました。募金して下さる方はまれですが、その方々が、とてもありがたく思えました。

中には1000円札を入れてくれた人がいてびっくりした。とてもいい経験になった。それに「お願いします」とか叫んだり楽しかったです。初めての体験でした。この不況の中、募金していただいた皆さんの善意に感激しました。ボランティアのみなさんの熱意大切です。これからも協力したいと考えています。今年一番の冷え込みの中で参加しましたが、募金いただいた方々の心の温かさが私の体を暖かくしてくれました。これからも継続して参加したいと思います。(伊藤ハム)

ユニセフ募金活動を通じて、街の人々のあたたかい厚意にじかに接することができ、少しの時間でしたが有意義でした。今後もユニセフの活動に引き続き関わりたいと考えています。(伊藤ハム)

## 宝塚会場



【参加ボランティアの感想】今年も昨年同様に冷たい底冷えする活動日でした。今年は出足が悪かったかな、午後からの方が良かったかなと思ったりしました。

## 住吉会場



【参加ボランティアの感想】たのしかった。もういいいきたい。らい年もよろしくおねがいします。みんないっぱいお金をいれてくれた。

本当に楽しかったです。ネットワークと初めて一緒に活動できて本当に良かったです。心が温かい人ばかりで参加してよかったです。本当にありがとうございました。(高校生)

みんなたくさん入れてくれてうれしかった。

## 報告会レポート



講師に毎日新聞の中尾卓司さんを迎えて開催。参加者約30名。別名『見えない戦争』ともいわれるエイズが蔓延しているアフリカ・ザンビアの様子をスライド映像による報告会で最新の情報を知り、映像でみることが出来たよい機会でした。

## アフリカ・ザンビアからの報告会 「エイズと子どもたち」

報告会に参加して思ったこと

エイズの問題は全て貧困につながることをさらに自覚させられた。開発国の事情も一致している。中尾さんの淡々とした説明のなかからたくさん問題が浮かびあがってきました。私に何が出来るだろう。(50代女性)

目の前で苦しんでいる人がいればその人を助けたい...それはとても大切なことだと思います。

今から50年位前、私は在学中でありました学校でユニセフの活動を支援する授業があり色々学びました。その時から事情が良くなっているところか悪くなっているような気がします。

ボランティアの支援は大切だと思いますが何か根本的な活動が必要なのではないでしょうか!

このような報告会に参加しますと大変面白いです。(50代女性)

エイズの深刻さと克服の困難さを再確認しました。

お話の核心はエイズにあるのは勿論だが、理解を促すためには、その国の生活の状況を目で見た説明があればより良いと思う。(50代男性)

私達は本当に恵まれた環境にいるのだな~と思った。

アフリカの現状を知るいい機会になった。何故これだけの格差がこんなに長い間続いたままなのか分からない。知りたいと思って調べているけれど分からない。でも

こういう報告会などがあつたら参加して、少しでも何か見つけられたらいいなと思う。

自分なりの世界観をつくるきっかけにしていきたい。(10代女性)

貧困 無知 差別 偏見 etcによる。想像を絶する状況。女性 子ども達の教育を中心として地球の裏側の問題ではなく 我々全てに関係する問題として捉え 考えなくてはと深く感じました。NGO、国連etcの活動をメディアで紹介する場所を増やして啓発していくことも必要ではないかと思えます。(50代女性)

久しぶりに『ザンビア』の名前を聞いて駆けつけました。

常に状況の変わるアフリカの現状をこれからも注目していこうと思えます。(20代男性)

アフリカでエイズが猛威をふるっている。その事実は知っていたけれど迫真にせまる写真と中尾さんの懇切丁寧な説明のおかげで過酷な現実をよく理解することが出来ました。

今日はアフリカ諸国に対して自分が何が出来るとかということに改めて考えさせられるとともに自分の国がエイズに対して対岸の火事のような認識しか持っていないことを悲しく思う。

情報も医療も充分に手に入るこの豊かな国で先進国でありながら感染率の増えている現実を日本人としてまず何かしたい。(30代女性)



10月31日(日)生活文化センターで関西学院大学上ヶ原ハビタットのメンバー5名が9月にフィリピンで活動したことについて、報告会を開催。

## 関西学院大学 上ヶ原ハビタット報告会 「私たちがフィリピンで学んだこと」

報告会の参加者からの感想

日本ではハウスメーカーや工務店が家を建てますが、フィリピンやスリランカなどでは、日本と風土や気候が異なるのでブロックや日干しレンガで家を造って住むことができるのだと知りました。ゴミ山の問題についても日本では考えられないことで驚きました。

僕もフィリピンに行ってハビタットの人の家を見たり、現地の人たちと交流してみたいと思えました。

人とのつながりというのは、国境を越えるものだと思います。言葉が通じなくても人の「あたたかさ」というものを感じることで様々なことを「考える」ことができると思いました。そして考えて、じぶんたちができることをどの様に実践していくかが大事だと思います。

単なる家の寄付ではないところがその後のことも考える上でよいと思いました。国際開発で重要な「自立」の問題に対する姿勢が大切だと思います。

同じ世界に住んでいる同じ人間なのに、家がないとは知らなかったし、ハビタットとして大学生の人たちが活動しているのも知りませんでした。私も2月にフィリピンに行く予定なので、ハビタットの人の感じたものを得て、みんなに伝えられたらいいなと思えました。

フィリピンのスモークンマウンテンで生活している事は知っていたが、ビデオを見て実際のゴミの量に言葉がでなかった。

子どもたちの顔がとても明るく、一生懸命生きている姿が心に残った。ゴミ生活の映像には心が痛む思いがした。今後がんばって活動してほしい。

## 写真パネル展 「深刻化する子どもの人身売買」を開催

2004年12月12日(日)~19日(日)

子どもの人身売買の世界での実態と、ユニセフの取り組み。そして2002年8月にアグネス・チャン日本ユニセフ協会大使がカンボジアを訪れた際に出会った子どもたちの写真を紹介しました。



募金贈呈

西宮市立苦楽園中学校から募金贈呈  
11月8日(月) 生徒会を中心に『山人』(やまんちゅ・生徒会新聞)でアルミ缶回収を呼びかけ、ユニセフへの募金として生徒集会にていただきました。



兵庫県洋上大学生から募金贈呈(10月29日)  
チャリティゴルフ オービック募金贈呈(10月30日)

英知大学祭に出展

11月2日(火)、3日(水)の2日間。兵庫県支部としては初めて大学祭に参加させていただき感謝しています。これからこのような機会が増えることを願っています。



兵庫教育大学附属中学生が県支部を訪問

11月5日(金) 中学1年生の6名が兵庫県支部へ。世界へ繋がるボランティア活動について熱心に耳を傾けて聞いてくださいました。



あいメッセ姫路 2004 に出展参加

11月20(土)、姫路市男女共同参画センター主催の催しにコープこうべと共同で参加。「ユニセフってなあに」をテーマに、混乱の中で生きる子どもたちの支援について、地雷レプリカ展示や水ガメ運びの体験、紙芝居の上演などを実施。当日はユニセフにいつもご協力いただいているサークルウイズのメンバーもボランティアとして活躍いただきました。



兵庫県立長田高校文化部発表会にて

12月23日(祝・木) 生徒会活動の中でユニセフ展示として地雷のレプリカ、パネルなどを展示しました。少しでも多くの人に世界の現状について知って、考えてもらえるようにしたいと思います。



その他の活動

協同学苑祭に参加(10/31)  
3地区ファミリーフェスタに参加(11/14)  
子どもフォーラム2004(11/20)  
ハーブコンサートカード販売(12/4)  
コープこうべ生活文化センターでのカード販売(12/7)



毎月7日はカード・グッズの販売日です!  
コープこうべ生活文化センター1階ロビー

こんなことしてます ~皆様からのお便りをもとにご紹介しています、投稿募集中!~

第一生命保険相互会社・神戸支社開設80周年記念  
チャリティーバザーを開催



にぎやかに支部づくりを目指すとともに、お客様のご愛顧への感謝の気持ちと、地域への還元を目的に、各営業部(神戸中央・神戸西・西宮)で実施。たくさんの善意をユニセフに寄付してくださいました。

こんなご協力も  
川西ではユニセフサンタさんが.....



家庭で集まった空き瓶代金のユニセフ募金。今ではご近所の方からもご協力いただくまでになりました。(姫路)

写真は各々主催者から提供  
いただきました。

学生によるユニセフグループ  
UNIESが発足しました



兵庫県支部の学生ボランティアたちの新しいグループです。世界の子どもたちのために、学生独自の視点で、楽しみながら活動

していきます。毎月第3土曜日に県支部の事務所でミーティングを行っています。時間は午後2時から4時。気軽にのぞいてみてください。

これまでに訪問して開いた学習会

訪問日	訪問先	対象	人数
11月22日	コープこうべレインボースクール	受講生	14
12月9日	福崎町立高岡小学校	小学5,6年	39
12月18日	西宮友の会	小学生~大人	35

兵庫県支部の設立前後からこれまでに多大なご尽力をいただいた宮内明彌専務理事がご逝去されました(2004年10月31日)。いつもユニセフやボランティアさんを温かく大きく見守り支えてくださっていましたことに改めて感謝の気持ちで一杯です。心からご冥福をお祈りいたします。

ボランティア募集

みなさんの大切な時間、ボランティア活動を通じて世界の子どもたちのことに目をむけてみませんか。学習会の講師やイベントへの参加、事務局、広報誌作成など。あなたにあったものを見つけてください。興味のある方、ちょっとのぞいてみませんか。ご連絡お待ちしております。

兵庫県支部のホームページを開設しました

ホームページでは、支部の案内やイベント情報、活動報告、ボランティア募集など最新の情報をお知らせしています。



<http://www.office-bit.com/unicef-hyogo>

\* ご協力ください \*

ユニセフ募金 ~ご家庭で学校で職場で~

いただきました募金は、日本ユニセフ協会からユニセフ本部、そしてユニセフ現地事務所を通じて世界の子どもたちの支援活動に使われます。

郵便振替でお願いします

口座番号:00190-5-31000

加入者名:(財)日本ユニセフ協会

通信欄に「K1-280 兵庫県支部」とご記入ください。

会員って ユニセフ協力活動を行なう日本ユニセフ協会を、会費によって支援します。

一般会員...個人ならどなたでも 1口 5,000円

学生会員...18歳以上の学生 1口 2,000円

団体会員...団体、法人、企業 1口 100,000円

申込み方法についてはお問い合わせください。

緊急募金のお願い

スマトラ沖地震緊急募金	郵便振替:00110-5-79500 通信欄に「スマトラ K1-280兵庫」と記入
スーダン・ダルフール緊急募金	郵便振替:00110-5-79500 通信欄に「スーダン K1-280兵庫」と記入
バングラデシュ緊急募金	郵便振替:00110-5-79500 通信欄に「バングラデシュ K1-280兵庫」と記入
イラク緊急募金	郵便振替:00110-5-79500 通信欄に「イラク K1-280兵庫」と記入
アフガニスタン緊急募金	郵便振替:00190-5-31000 通信欄に「アフガニスタン K1-280兵庫」と記入
アフリカ緊急募金	郵便振替:00190-5-31000 通信欄に「アフリカ K1-280兵庫」と記入

【共通】 口座名義:財団法人日本ユニセフ協会  
募金は郵便局指定の振込用紙をご利用の上、上記口座までお振込みください。  
スマトラ、スーダン、バングラデシュ、イラクは手数料免除。  
アフガニスタン、アフリカは手数料加入者負担。



## インドネシアへの3回目の訪問で

兵庫県支部  
ボランティア 真淵早百合  
(神戸市外国語大学 2 回生)

4年前の高校1年生の春、インドネシアに短期留学した事がきっかけで「インドネシア」という国にはまってしまい、大学2年生の去年の夏に3回目の訪問を試みた。今回はいつもと違って友達と一緒に行くのではなく、初めての一人旅となった。私がいつも訪れる地域はスマトラ島の西に位置するPadang（パダン）という地域である。この地域はインドネシアの中でも香辛料をたくさん使用した辛いパダン料理というものがとても有名で初めてこのパダン料理というものに挑戦した時は唇が腫れてしまったことをよく覚えている。今は口が慣れてとても美味しい私の大好き物の食べ物である。

インドネシアという国は1万以上の島々から成る共和国である。日本のみなさんがよく知っている島といえばおそらくBali島ではないだろうか。青い海での海水浴、ダイビングを楽しもうと夏休みなどには海外からたくさんの観光客がこのBali島に訪れるのである。今回でインドネシアが3回目の私であるがBali

島に行った事がなかったのでインドネシア人の友達と一緒にBali島、そして首都のジャカルタがあるジャワ島の何カ所かの地域にも行くことにした。8月の約1カ月間のインドネシア滞在期間を大まかに分けるとBali島で1週間、ジャワ島で5日間そしてスマトラ島のパダンで2週間になる。この長いようで短い1カ月間の間私はいろんな人に出会い、いろんな人の考え方や価値観を知る事ができた。どれも私にとっても大切な経験であり思い出である。

### パダンの友人から教えられたこと

その中でも私が一番考えさせられた事が一つあった。それはスマトラ島のパダンに住んでいる親友のyokkyとある晩二人で話していた時、彼が何気なく私に話してくれた事である。yokkyとは高校1年生の時にパダンで異文化交流として高校に通っていた時に友達になった同じ20歳の男の子である。彼はバスケットボールが本当に得意で、

たまに二人で真剣に1対1のバスケゲームをしたりする。そんな彼がある晩、私のホームステイ先の家に遊びにきて夜こんなことを聞いてきた。

「早百合は日本で学校に行きながらバイトはしているの?」  
私はもちろんのごとく

「うん、もちろんしているよ!!今は服屋さんで洋服を売っているんだよ。日本人の学生はほとんどの子がバイトしながら学校に行っているよ」

そう彼に言うと、少し間があってから彼がこう言った。

「いいな早百合は、自分でお金をかせぐ事ができて。僕本当は自立したいけどインドネシアは本当に仕事が無いからバイトなんて少ししかないんだよ...本当に日本という国はすごいな...僕も自分でお金を稼ぎたいよ」

真剣な顔をして彼はそう話した。実をいうと今回のインドネシア訪問で私は彼らの生活を見ていてある事に驚かされた。それは携帯電話の普及の早さである。4年前に来た時は携帯電話という物は「高価なもの」であまり使っている人を見ることはなかったが、あの時から4年後の今日、たくさんのインドネシア人が自分専用の携帯を持っていてyokkyをはじめとするインドネシア人の私の友達もほとんどの子が使っていた。そんな彼らの状況を見た私は「インドネシアもどんどん発展していったらいいな!!いろんな便利なものが増えてきているな」と少し感心していた。そんな時に彼からインドネシアではバイトがない、大学を卒業した人でさえ仕事を持つことが困難なほどの仕事不足である、という事を聞かされてなんだか考えさせられてしまった。携帯電話をはじめとする「物」は豊富になりつつあるのに、仕事不足など彼らがおかれている状況は少しずつ悪化してきているのである。私の以前までの考え方は「物が豊富にある=社会的にも安定している」というものであった。しかし、yokkyと話している時に不満じみた彼の声を聞き、彼らがおかれている状況はとても厳しいという事をひしひしと感じた。そして物があふれているからといって必ずしも幸せで

はないという結論が自分の中にできた。また、私自身「働く」ということをあまり深く考えた事がなかったけど親友にそんな話をされて、「あ～私みたいな学生が社会の中でバイトとして働けるという事は日本という国の社会がきちんとしたものであって、相手に対してどんな風に接するかなどを学んだりする環境が整っているからなのかな?」と考えることが多くなり、日本に帰ってきてからバイトをする時、一層頑張るぞという気分になった。

### 児童労働について

インドネシアではまだまだたくさん子どもたちが助けを必要としている。その中でも本当に私自身迅速な対応が必要だと思っているのが児童労働に従事させられている子どもたちである。4年前インドネシアで子どもの労働現場を自分の目で見てから、私の夢は「あの子どもたちに学校を建ててあげたい」という事であった。しかし、今回の旅を通してまず彼らを助けるためにしないといけない事は彼らの親の状態をみる事なのではないかと考えた。どうして子どもたちが働かないといけないのか?いろいろな理由が密接に絡み合っていると思うが、その一つに親たちが仕事をもっていないという事も考えられるのではないだろうか?仕事をしたくても仕事がない。だからお金が稼げない、お金がないことにより子どもたちは学校に行くことが困難になり結果、労働に従事させられるという一つのサイクルができていると思う。この考えが正しいかどうかは私自身の考えなので正直分からない。しかしこのように自身で考える事こそが本当に大切な事だと私は信じている。

私がユニセフ活動で大切だと考えている事、それは「知る」という事である。そしてその「知った事」をみんなに知らせていく、世界の現状を認識してもらうという事である。私は今回の旅で仕事不足という事がインドネシアにおいて児童労働の原因になっているのではないかという自分の考えを知った。これからの自分の課題の一つはこの考えを間違っているかいないかは別としてみんなに知らせるという事である。日本にいとバイトに学校に忙しかい毎日だけれど少しずつ勉強して、同じ地球に住む地球市民として頑張ろうと思う。yokky、いい話をしてくれてありがとう “terima kasih banyak!”

### スマトラ沖地震に関して

昨年の12月26日に起こったインドネシア・スマトラ島沖地震により、今もお数多くの方が命を落とされています。地震が起こってからすぐに私もインドネシア・スマトラ島パダンの友達に連絡をとり安否を確認しました。パダンは震源地のアチェ州からはるかに離れていますがやはり揺れを感じ、本当に怖かったということを書いていました。地震が発生してからたくさんの友人が「インドネシアの友達は大丈夫?」と心配してくれて防災に関するグループに関わっている友達は「何かできることがあったら言ってね」と言ってくれたのでそのことを友達に伝えました。パダンの友達は「本当にありがとう、日本人のそんな風な気持ちには感謝するよ本当に」と書いていました。いつもははずんだ声で話をしてくれる彼女でさえ地震の事になると



写真(上から)  
バリ島にて  
バリ島からロンボック島への船乗場で  
ロンボック島で友達と  
パダンの友人yokky(ヨーキ)

本当に暗い声をしていて被害の大きさ、また地震に対してのショックをとても感じとれました。10年前、私も阪神・淡路大震災という大きな自然災害に直面しました。あれから10年という長い月日が経ち、神戸もとの町に戻ろうとしています。もとに戻ろうとしている事に人は嬉しさというものをもちろん感じますが忘れてはいけない事は私自身それまでの復興の道のりだと思っています。たくさんの人からの支え、援助そして励ましがあつた事を今一度思い出してほしいと思います。その中でどうかインドネシアでの地震で被害に遭われた方々のことを思い「遠いある島で起こったこと」と思わないで同じ地球市民として一体何が出来るか考えてほしいと思います。



スマトラ島のパダンの友人、高校1年生のときからずっと仲よし。